

日本赤十字社和歌山医療センター 医療連携だより

冬号
No. 72



和歌山医療センター
和歌山市小松原通四丁目20番地

TEL: 0120-965-582 (医療連携課)
(発行責任者) 管理局長 宮本 明典

FAX: 0120-937-510 (医療連携課)
e-mail: renkei@wakayama-medjrc.or.jp



新年のご挨拶

院長 平岡 真寛



あけましておめでとうございます。新年を迎え、諸先生方におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年、厚生労働省が公表した2018年人口動態統計月報年計(概数)によると、死亡数は前年より増加した136万2,482人であり、その27.4%が悪性新生物で亡くなっているという統計が出ています。つまり約3.6人に1人が「がん」が原因となり亡くなっていることになり、もはやがんは「国民病」といっても過言ではない状況となっています。和歌山県は全国の中でもがん死亡率が高い都道府県であるため、「がん診療」の充実が特に求められています。

がん医療を含む高度な医療の実現

当センターは、「がん医療を含む高度な医療の実現」を目指しています。昨年4月には、がん診療実績(手術、放射線治療、薬物療法の各実施数など)、緩和医療への取り組みなどが厚労省から評価されました。2次医療圏に1つ地域がん診療連携拠点病院が指定されていますが、その数300を超える中で、特に優れた病院として全国14病院が指定を受けた『地域がん診療連携拠点病院(高度型)』の1つとして指定されました。

がん医療は、がんの専門病院に任せておけば良いという風潮がありましたが、一般病院におけるがん医療の役割が近年、向上しています。それに

は社会を取り巻く医療環境の変化があります。その大きなものは、高齢がん患者の急増です。糖尿病や心疾患などを併発することが多く全身管理が可能な病院での治療が重要です。また、2018年のノーベル賞に繋がったがん免疫チェックポイント阻害剤ですが、効果はある一方で今まで見られなかった重篤な有害事象が全身の臓器から発症します。このことから、各診療科を網羅した総合病院の優位性が明らかです。

また、がん医療が入院から外来にシフトしており、入院期間もどんどん短くなってきています。その結果、救急外来を受診するがん患者さんが増加しています。がんも救急疾患になりつつある中で、救急体制が整った病院ががん医療に責任を持つべきと思われます。更には、がんの診断がついた時点から、不幸にして亡くなることになっても看取りまで対応してくれる、最後まで患者、家族に寄り添ってくれる医療への社会の要請が急速に高まっています。このことに正面から対応しうる数少ない病院が当センターであると自負しています。赤十字の基本である「人間の生命は尊重されなければならないし、苦しんでいる者は、敵味方の別なく救われなければならない」という「人道」の精神にも合致しています。

このような状況を鑑み、当センター内に、がんセンターを設置することを決定し、その開設に向けて鋭意準備中です。その中核の一つとなるがん診療外来部門は、本館2階にこの秋にオープンし

ます。当センターのがんのエキスパートが結集し、がん患者に最良の医療を提供する場所です。このがんセンターは、診療部門としてがん診療外来部門、周術期手術センター、内視鏡センター、最先端手術センター、がん検診センター、緩和ケアセンター、薬物療法センター、高精度放射線治療センター、がんゲノム医療センター、支援部門としてがん相談支援センター、がん情報センター、学術研究センターと多くのセンターにて構成されます。その多くは、既に稼働しているものであり、必要に応じて強化、拡充していきたいと考えています。既に、がん相談支援センターは活動を強化しています。

「高度な医療の実現」として、もう一つ、従来の手術室に血管カテーテル室を組み合わせたハイブリッド手術室をこの4月に稼働予定です。心臓血管外科、整形外科、脳神経外科における精緻な高度手術に寄与するものと期待しています。また本手術室が設置された後には、高齢者で増加している大動脈弁狭窄症のカテーテル治療である(TAVI)の導入を開始します。

救急医療の強化、医療連携の促進

当センターのもう一つの柱である「救急医療」につきましても、全例応需の旗を堅持して、和歌山の救急の維持、強化に引き続き貢献していきたいと考えています。

がん医療や救急医療など和歌山において円滑に行っていく上で、地域医療機関の先生方との「医療連携」は『要』となります。この連携体制の中心となりご尽力いただいているのが、医療連携ネットワーク会員の諸先生方です。昨秋に開催しました医療「医療連携ネットワークの集い」では、例年以上に多くの連携ネットワーク会員の皆様にご参集いただき感謝しております。今後も、地域の先生方と様々な形で情報交換ができる場を設けていきたいと考えております。開催時には、ご案内をお送りいたしますので、ご参加いただき、ぜひ、忌憚のないご意見をお聞かせください。

最後に、先生方にとりまして幸多い年になりますよう祈念しまして年頭のご挨拶といたします。どうぞ今年もあたたかいご支援とご助言をこころよりお願い申し上げます。



患者総合支援センター のご紹介

副院長 兼 患者総合支援センター長 兼 消化器内科部長 山下 幸孝

現在我が国では急速な高齢化が進み、救命、治癒、社会復帰を前提とした病院完結型医療から、病気と共存しながら生活の質を落とさずに地域で暮らしていく地域完結型医療へと変わる事が求められています。具体的には、地域医療構想、地域包括ケアシステムの構築、在院日数の短縮などが国家的政策として進められています。

このような動きの中、各施設においては強固な地域医療連携の構築とその円滑な運用は最重要課題のひとつとなっております。

当センターにおいては、医療連携総合支援セン

ターと患者総合支援センターが地域完結型医療の構築に向けて中心的な役割を担っており、病院一丸となって和歌山における地域医療の推進、発展の一助となるよう努めております。

今回は、患者総合支援センターの実情について、実務担当者の立場からご紹介させていただきたいと思っております。

治療や介助を必要とされる方々に対して、地域で支えていく体制を共に作りあげる事が出来れば、地域にとっても我々医療関係者にとっても本当に喜ばしいことではないかと考えております。

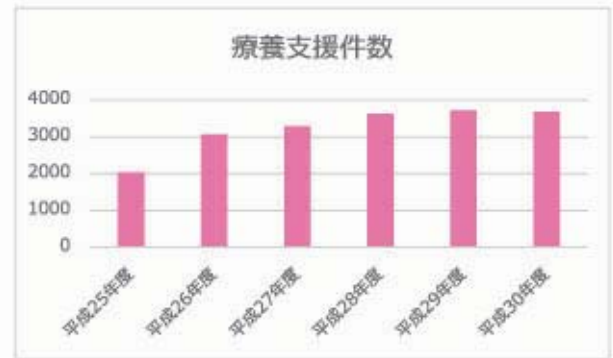
医療社会事業課 係長 戸石 輝

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

患者総合支援センターについてご案内させていただきます。患者総合支援センターには、「入院前支援」(患者サポートセンター)、「ベッドコントロール」(病床管理調整室)、「療養支援」、「相談支援」の4つの機能があります。予定入院の患者さんについては、患者サポートセンターで看護師、事務職員が入院生活や治療等に関する説明を行い、その方の家族構成や生活環境、利用している介護サービスなどを情報収集し、支援が必要かをアセスメントする「入院前支援」を行っています。入院前支援の内容は、入院する病棟や療養支援につないでいます。入院する病床については、予定、緊急を問わず、病床管理調整室が調整しています。入院後は、家族関係や経済的問題などの社会的な課題に対する支援や退院支援などの「療養支援」を社会福祉士、看護師が行います。「療養支援」については、入院中だけでなく、外来通院中の患者さんに対しても行っています。また、患者さんやご家族の方が相談したいと考えた際に、相談できるように本館1階に患者相談窓口、本館2階にがん相談支援センターを設置し、「相談支援」を行っております。この他にも、せん妄・認知症ケアチームを設置して、入院中の患者さんを中心にせん妄や認知症を抱える方の療養について支援をしています。



近年、医療の高度化により、従来入院で行っていた治療が外来でできるようになったことや、核家族化、地域における関係の希薄化などの社会的な部分を見ると、患者総合支援センターが担う役割は大きくなってきていると感じており、実際に患者総合支援センターに行う療養支援件数は年々



【表1】

増加しています。【表1】その中で、私たちは院内外における連携の強化に取り組んでいます。院内では、入院前支援から療養支援への連携や医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーションスタッフなど職種間での協働の機会を増やし、質の向上に努めています。院外については、転院の際に相談支援・療養支援経過報告を作成し、実施した支援の経過と連携機関において今後、継続して支援が必要な内容を記載しています。また、在宅移行や施設入所の際には、在宅療養を担っていただく医師や訪問看護師、ケアマネジャー等に来院していただき、退院前カンファレンスを行うようにしております。これらの取組により、単に治療をつなぐのではなく、ご本人やご家族の安心や医療・福祉に対する信頼をもつことができると考えております。

様々な支援を行う中で、先生方にご相談させていただくことが多くあります。その中には、急なものや難しいものもあるかとは思いますが、ご本人の療養や治療について共にご検討頂きたいをお願いします。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



【本館2階 がん相談支援センター】

がん看護外来を開設

がんの症状や、がん治療に伴う副作用のコントロール、生活面での不安や悩みなどについて、がん看護専門看護師やがん分野の認定看護師が、患者さんやご家族と一緒に解決策を考える場所として「がん看護外来」を、昨年12月より開設しました。

がん看護外来では、患者さんにご家族が病気や治療について理解を深め、ご自身の持っている力を発揮し、安心して納得できる生活が送れるように個別かつ継続的にサポートを致します。

外来を希望される方がいらっしゃいましたらまずは、主たる診療科の医師にご相談ください。診察後、がん看護外来のご予約をお取り致します。

	月	火	水	木	金
午前	●	●	—	●	●
午後	●	—	—	●	●
受付時間：9時～12時、13時～16時（完全予約制）					

令和元年度診療科別合同セミナー・講演会等一覧

当センターでは、地域の先生方のご意見を伺い、よりよい病診連携に繋げることを目的とし、意見交換会を行っております。今後とも開催時には、ご案内いたしますので、ぜひご参加ください。

令和元年10月～12月開催分

日時	診療科	会合・講演会名	参加人数 (合計)
10月17日	呼吸器内科	和歌山 COPD Seminar	53名
10月26日	脳神経外科	令和元年度第2回脳卒中地域連携バス情報交換会	79名
10月31日	呼吸器内科	Respiratory Forum in Wakaayama	40名
11月6日	整形外科	第7回整形外科疾患講演会	27名
11月7日	消化器内科	第5回和歌山消化器癌フォーラム	37名
11月14日	呼吸器外科・呼吸器内科	第3回和歌山地域肺がんの集い	35名
11月21日	耳鼻咽喉科	第21回和歌山・泉南耳鼻咽喉科頭頸部外科臨床研究会	27名
11月21日	整形外科	令和元年度第2回大腿骨地域バス合同カンファレンス	70名

就任のお知らせ

1月1日付

小児外科部 **堀池正樹** (副部長)

上記の職員が新たに就任いたしました。
よろしくお願ひします。

退職のお知らせ

12月31日付

小児外科部 **中岡達雄** (部長)

血液内科部 **白神大志** (医師)

呼吸器内科部 **小西聡史** (医師)

上記の職員が退職いたしました。
大変お世話になりました。